

「トレイシー」の夢

作者名…可知日出男（かちひでお。）

登場人物（4名＋ナレーター）

- ・オータニ中尉（零戦操縦士／251 海軍航空隊・大谷誠）
- ・クラーク中佐（尋問官）
- ・神の宮駐独大使（ヒトラー崇拜者、三国同盟の推進者）
- ・補佐官&特攻隊の生き残り（同一人物が演じる）

『アメリカ軍秘密収容所トレイシー』

日米戦争開始から半年、昭和二〇年の6月のミッドウェイ海戦大敗で、捕虜になった零戦の隊長が、秘密収容所「トレイシー」で、優しい尋問官と、ドイツからゴボートで逃走してきた駐独日本人大使と出会う。そこで繰り広げられる葛藤と、悲劇?!

時代は飛んで、戦後復興の占領軍本部前、『青山山脈』の歌が流れる中、特攻隊生き残り兵が、来訪のアメリカ人に噛みついてる。。。 . .

なんと、極東国際軍事裁判の処刑を逃れ、生き延びた者とは!?

〜闇の中、一条の光、歌が流れる・・・

♪今じん、人と人の、イマジン、こころをむすぶ、いまじん、あなたのこと、イマジン、今を越えて〜ゆつくりと・・・

時は必ず変わってゆく、どんなに闇が深くても、目の前の光を信じよう

・・・手と手をつなぐイマジン〜♪

≡>日米戦争の末期、硫黄島が落ち、沖縄戦真っ最中の昭和20年の5月。アメリカ・カリフォルニア州郊外にある、人里離れた古いホテルを改造した、国家的に極秘の捕虜収容所。住民・国民はおろか、海軍・陸軍のトップと総司令、大統領以外には誰も知らないトップ・シークレットの場所。戦後も数十年に渡って、誰が関わったのか、誰が捕えられていたのかを含めて、一切不明であった。しかし、日本兵から聞き出した軍事機密など、尋問の内容は、一文字も捨てずに、アメリカ国立公文書館の奥深くに、残されていたのだ。

（♪忘れてはいけないことだからだ・・・）

午前中の明るさ♪音楽は、グレン・ミラーの軽快な「真珠の首飾り」に替わっていく。

今日は、ナチス信奉者の駐独大使Ⅱ神の宮が、ワシントンから送られてくる日。

審問官Ⅱクラーク大佐はそわそわと、二階の広めの部屋で、分厚い書類のページを、忙しくめくっている。

クラーク>久しぶりにいい天気だ・・

グレン・ミラーは大好きだが、こっちは気が重い。

日本人捕虜たちと、グラウンドで Baseball でもしようっていう日に、日独伊三国同盟の首謀者・ごりごりの駐独日本大使Ⅱ神の宮が、この静穏な「トレイシー収容所」に送られてくるとはね!!??

どう対応してよいものか? 今まで尋問してきた兵士とは、まったく勝手が違う。プライドも高く、非協力的だ。もう、勝敗は決まっているというのに・・サイパンも硫黄島も落ち、日本本土の偵察も大空襲も自由自在だ。沖縄も厳しいが、来月中には落ちるだろう。

今さら、何を聞き出せというのだ、総司令部は!!!?

神の宮(大使)は、相当の頑固者で横暴だと聞いている。

私のような、ソフトな路線・共通の趣味や音楽・機械技術などの話で、日本兵の士官を懐柔してきたやり方が、通じるわけがない。

(まして、戦後の日本復興の話など・・)

日本向けの降伏を進める短波放送に使える情報でもあるのか？

ニューヨークやワシントンに、置いておいてくれればよいのに・・・

ラジオを止め、窓の外を眺めるクラーク。

車の音、軍用車が眼下に止まって、補佐官に付き添われた日本人が降りてくる。

クラークは、彼の姿を目に入れ、そして目をそらす。テーブルの上の葉巻に火をつけた。

やがて、ドアの外に足音。ノックがあつて、補佐官に連れられた神の宮が入ってくる。

クラーク>ようこそ、日本大使閣下。はるばると長旅、お疲れさまでした。

神の宮>儀礼的なことはいいよ。ずいぶん落ち着いた場所じゃないか。ちらと見えた日本兵も、血色がよさそうだ。

クラーク>厚遇しております。みな、和やかに過ごしています。

神の宮>ヒットラー総統が自害される前に、私は潜水艦にボートで逃がしていた。連合軍に捕まらなければ、地中海→紅海→インド洋→南シナ海と渡って、佐世保か呉にでも着いていたんだが・・・

クラーク>(書類をめくりながら、)承知しております。我が国も、あなたを捕虜ではなく、抑留外交官として扱ってきております。どうか、戦争終結と、終戦後の貴国の復興に役立つ情報・行動をお願いいたします。

神の宮>何を言うのかね。ニューヨークでもワシントンでも、十分に協力してきた。

ここでは、この温かい環境で、ゆっくりと・・・休まさせていただくよ。

クラーク>こちらには、ミッドウェー海戦で活躍したゼロ戦の名手Ⅱ大谷中尉も

います。どうぞ、よいお付き合いを、お願いします・・・

(ニ 日米戦争が終わって5年たった昭和25年、東京丸の内、占領軍総司令部505本部の前のお堀端より明るい曲「青い山脈」が流れている

いかにも成り上がりという風情の男が一人、暑い日差しの中、いきり立って歩いている。)

男>今日という今日は、連合軍総司令に物申したい。マッカーサーはもういないだろう、後任はリッジウェーか？

入口の幾本もあるギリシャ風の大きな柱の前に、立派な体格の男・クラークがいた。

クラーク>おや、以前お世話になった、505昼食係の食肉会社社長ではありませんか？

どうしましたか？とても興奮されているようですが・・・

男>ありがとうございます！！・・・俺はね、あんたとこの国との戦争で、志願して航空兵になったさ。でも万年二等兵、下手なんだよ操縦が。だからあの最後のばかばかしい肉弾攻撃の時に、ぼろぼろの飛行機に乗る特攻隊に選ばれちゃった。優秀な奴は、最後まで選ばれなかったんだ。しかもポンコツの整備不良、敵艦の手前で失速、海にフラフラ不時着さ。桜は散ってこそ桜だ。くたくたで死に損なえば、生き地獄が待っていた。みんなに石投げられたよ。“死にぞこない”“一族の恥”

悪口雑言・罵詈雑言!!

生き恥さらすったあ、このことだ。

クラーク>ご苦勞でした。大変でしたね。私も、(戦中は)人に言えない任務でした。今、復興のお手伝いで、罪滅ぼしをしています・

男>こりゃ、びっくりした。こんなアメリカさんもいたんだね・

俺あ、闇市に隠れたさあ。何でもいいから、食いもの集めて、鍋にして売ったさ。料理は下手じゃねえ。蛇の道はへびさ。一度は死んだ身、死ぬ気になりゃあ、なんだってできる。人の目を盗んで這い上がった。

クラーク>満州からの引き揚げの方や、シベリア抑留、東南アジアからの帰還の方々より、よっぽど早く立ち上がられたんですね・立派な身なりで。

男>おめえさん、日本語上手いな。戦前にいた口かい??

クラーク>私は、アメリカの大学で、与謝野晶子さんの歌に出会いました。

「ああ吾よ君を泣く・君死に給うことなかれ」

男>そりゃ、日露戦争の時の反戦歌じゃねえか、戦地に行く弟を思ってたの・
クラーク>よくご存じて。こんな歌が生まれる国に行きたい、思って、昭和の初めにこの国に来ました。明治の気骨、大正自由ロマン、昭和モダン。野球もしました。アメリカが大恐慌の時でも、日本は元気でした。健康でした。あの支那事変が始まるまでは・

男>そうかい、そうかい。そりゃ、ありがてえこった。そのアメリカさんが、罪滅ぼしだか、お国の都合だか何だか、日本の復興をお手伝いと・

こう言いてえ所だろうが、ギツチヨんだ。えっ!!

おれは、闇市を這いずり回っている時に、おれたちが併合して馬鹿にしてきた半島の人たちに助けられた。けっこうひでえ仕打ちをしてきたっていうのにだ。

クラーク>そうでしたか・あなたは・すごい、

男>終いまで聞きねえ。今まさに、半島の北から、後ろ盾の国の力も借りて、38度線を越えようとしている人たち・軍隊がいる。お宅の国も黙っちゃいない。

日本駐留軍を動かして、総反撃だ。防衛ならまだいい。

しかし、俺や俺の仲間たちがやってきたように、必ず大量の殺し合いに向かう。

時と場合によっちゃ、広島・長崎に落とした、あの原爆の3発目・4発目だって考えているにちげえねえんだ!!

クラーク>えっ!何ということを・

男>そいつを、考え直してほしい。日本も昔と同じではない。半島だって、その向こうの大陸だってそうだ。ちったあ、賢くなっている。

お宅の国も、世界の盟主だか何だか知らないが、この美しい日本を占領して治めているんじゃないか!? あの、大空襲や原爆で、国や大地を破壊すること、これ以上人を殺すこと、連鎖反応は、まっぴらなんぞい。どうか、リッジウエー中

将閣下に取り次いでくれ:(頼む、この通りだ:)!!!

クラーク>・・・(うっすら涙)

↓夕日の射すゆったりとした部屋。パイプをくゆらせるクラーク

オータニには珈琲がすすめられ、穏やかな表情でいる。

そこに突然、ドアを荒々しく開けて、神の宮が入ってくる。

神の宮>私は知っている！この、古いホテルを改造して作った秘密尋問所「トレイシ
ー」は、(捕虜の人権を守る)ジュネーブ条約に完全に違反していることを！

友好的な態度でカムフラージュしながら、これからの世界や日本をおもんばかるよう
な恰好をして、我々の軍事機密を聞き出し、実は盗聴器を仕掛けて、その裏を取るた
めに捕虜たちの会話を記録していたのだ！！(まさに陰険なる飴とムチ！真綿で首を
締める人権蹂躪だ！)

どうかね、アメリカ民主主義にかぶれたオータニ君。

あろうことか、ゼロ戦や大和の秘密を惜しげもなく伝え、早くの終戦、そして平等
で“豊かな”戦後の日本(ニッポン)！・・・アメリカのように自由で民主的な国家を
実現する！〜などと、たわげた夢に浮かれていたんじゃないのか！？

オータニ>閣下、何を言われますか！昭和二年の開戦からもう三年半、(ドイツも敗
れ、ヒットラーは自害し、大使閣下はニボートで命からがら脱出されたのではないで
すか！)

私の捕えられたミッドウェイ海戦の大敗北、そしてガタルカナル、サイパン、アッツ
島、硫黄島、さらに今、沖縄までも・・・玉砕しました。わがふるさと日本本土も、す

みずみまで空襲です。動いている物は、何を撃ってもよいなどという命令で、民間人への機銃掃射までが行われているのです!! 挙句に、東京・名古屋・大阪を焼き尽くすせん滅作戦のような大空襲・

戦火に焼け出され、何十万の人が亡くなっています。

もちろん、私が裏切り者として、故国の地を二度と踏めないことは分かっています。

この「トレイシー」の盗聴のことも、うすうす・

クラーク>いや、そんなことはしていない!!とんでもないことだ。この豊かな自由と平和を愛するアメリカがそんなことをして何になるんだ!!ここでの取り調べは、あなたたちに不快な思いをさせないように、大使は「抑留外交官」として、賓客に準ずる扱いをしている。

オータニ君は「一級捕虜」として、丁重にわが国の考えを提示し、時には最新式の空母にも乗ってもらい、その性能に対する意見交換もしたのだ。その内容すべては、我が国のトップであるニミッツ司令長官やトルーマン大統領にまで、即座に伝わっている。この素晴らしい民主的なシステムこそが、「アメリカの心」なんだ。

神の宮>(笑う)その見え透いた豊かさこそがウソなのだ。いかにも自由で公正・公平なような顔をして、心の中では、我々アジア人や有色人種を馬鹿にしている。資源に乏しい東洋の島国が、「八紘一字」だ、「聖戦」だ、「東洋の盟主」だ、「西欧列強からの植民地解放!」だと、真剣に叫んできたことを、「思いあがった黄色い帝国主義』とさげすんでいるのだ!!

彼の大西中将が言っている「今、二千万の特攻あれば、大日本帝国（大日本国）死な
ず、万代の繁栄を得る！」・・・これが、万世一系く古代から続く大和魂の豊かさなん
だ！！アメリカのような歴史の浅い「民主主義信奉者」には、この高貴な国の在り方
など、まったくわかるはずがないのだ！！

卑劣な盗聴や手練手管で我々をだまし、手段を選ばず、戦争に勝つことだけを考えて
いる国とは、自由や民主主義の仮面をかぶった「話にならない毛唐の国」ではないの
か！！！？

オータニ（うめきながら・・・）>言っていることとそうでないことがあります。閣
下、あんまりです。燃料も銃弾もなく、身を守る装甲板も救命具もない。我々はゼロ
戦の操縦技術と、命を懸けた仲間と、おのれの魂だけで戦いました。故里の母や父、
妻や子を守りたい一心でした！！多くの仲間が、海に陸に、戦場に散っていきまし
た。彼らの死は犬死ですか！？ 人のいのちを貴方は何と…

そのうえ、「特攻二千万」とは！！！？

いったい、日本に人間がいなくなるではないですか・・・！！

思わずオータニは、神の宮に詰め寄る。割って入るクラーク。

激しいもみ合いの中、源田の服のボタンが外れ、重そうな太いベルトが、外れて床に落ちる。なんと、
マネーベルト！！ドイツやアメリカの札びら、コインまでもが床に広がった。

絶句するオータニとボギー。ボギーのサーベルを奪う神の宮・・・

・・・真ん中に光が集まり、三人の影が大きく伸びる。

やがて、三人が見えなくなるほど明るくなって、轟音が鳴る。

突然の暗転。真つ暗闇が15秒ほど続く。。

「時は変わって、戦後の闇市・夕焼けの陽がブラック小屋や電信柱を照らす。人々が集い活発な商売が始まっている。戦後復興のシンボルの「リンゴの歌」が流れている、東京の有楽町。あの男がいた。(昭和22～23年)」

オータニ>おなかがすいたなあ：すいとん鍋でももらっていいこうか？

これはいくらだい？

男>へい、20銭でさあ

オータニ>ちょっと高くないか？何が入ってるんだ？そこら辺の犬でもつぶしたんじゃないだろうね？

男>だんな、めっそうもない！！、内緒だけどね。進駐軍出入りからの横流しの肉でっさ。精がつきまっさ！！

オータニ>そうか、腹が減っては戦はできぬ。いただこうか？

・うまい！！こりゃ、たいしたもんだ。

男>でっしょ！？俺んところは、特別だ。なにしろ、命がけてやっていますから。

オータニ>ほう、俺も命がけの海軍飛行隊(航空隊)にいたよ。

男>(ちょっとひるんで)えっ！士官でしたか？

オータニ>(ぼそりと)ゼロ戦だ。

男>そいつはすげえ！俺なんか(声を潜める)最後のカスつぺたみたいな特攻の生き残りでさあ、おかげで、えらい目にあいましたよ。

オータニ>そうか、そいつぁ大変だったな。それで流れ流れて、楽町(ラクチヨウ)の主になったってわけか？

男>いやいや、主だなんて、しかし、どん底を見たおかげで、すっかり改心で

きました。アメリカさんのやり方もひどかったが、今では感謝してるぐらいです。あ。何しろ、東北の田舎の村の末子（バッチ）で、要領が悪い。才能がない。飛行機の操縦なんてのは、ありやエリートさんのやることで。海軍のゼロ戦乗りなんざ、あこがれましたよ・・

オータニ>いや、ありがとう!! 元気が出た。俺も回心してもういっちょよう働か。復興の仕事も楽じゃない。ふるさとは帰れないしな・・

男>またごひいきに。空軍に使われてるんですね。

オータニ>よく分かるな？

男>バッジが付いてますよ。

オータニ>おっと（胸のバッジを押さえる）。なんだ、進駐軍に売り込みたいのか？

男>できますか？この辺、夕方になりや、毎日あちこちのキャンプへ、将校さんのパーティー仕事だかに行くバンドマンさんたちが、トラックに乗り込みまっさ。

あちらには立派なコックさんがいるから叶わない。

しかし、この丸の内の空軍本部ならば、けっこう行けるんじゃないかと思ってるんですよ。

オータニ>なるほど、確かに本部では、たいしたものが食えないな・・

一度、その寸胴を持って来てみてくれ。

男>話が、早い!! さすが元将校さんだ。

オータニ>いや、助けられた身なんでね・・

(翌日のお昼前、言の立つEIN本部に入ると、天井の高い、広いエントランスがあった。)

オータニ>今日は何か、横田基地から大事な方が来ると聞いている。こんな日に、あの男の紹介を決めてしまつて、自分、お人好しにもほどがあるな・・・しかし、俺が忘れていた何かを、確かにあいつは持っている。

おつ、来たな。

男>いや、嚴重ですね。言さんに、厳しく聞かれたわ。しかし、オータニさん、あなたの紹介状、丁寧に書いてあつて、通訳さんが取りなしてくれた。恩に着まつさ。

ここは、えらつく広い!!!ここで調理させてもらえれば、闇市なんか吹っ飛んじまうな!!!

オータニ>ハハハ・・・それはすごいな。アメリカ人に、焼け跡復興の知恵(底力)を見せてやるか!??

男>ハハハ!!!

そこへ、謹厳にして優しい面持ちの背の高い立派な体格の男が、背広姿でやってくる。

オータニ>・・・えっ、あなたは・・・

クラーク>オータニさん、よく生きておられました!!!この日を待ち望んでいました。

オータニ>クラーク中佐!!!

(絶句して抱き合う・・・)

どうしてここへ??

クラーク>GHQ本部から特命を受けました。ずっと、贖罪のこころが癒されず、日本国の復興に役立ちたいと、願ってきました。大好きな日本、まだまだ混乱のあ
る日本の教育や文化のためになれば、幸いです。

オータニ>あの時のことは、忘れません。トレ・

クラーク>(指を一本唇に立てて、静止の合図!) 私たちは、生き延びたのです。
よみがえる日本のために!! 生き直すのです。

力を合わせて!!

男>えっ、どうなっちゃてんだい!こりゃ??

≡過去の贖罪に生きるクラークは、どの家族にも友人知人にも、秘密収容所で働いていた過去を話すことはなかった。得意な日本語と温厚な人柄を利用して、秘密裏に知りえた情報は、日本の敗戦を早める重要な手立てとなっていたのだから。彼は、日本に来る時に、軍用機から一面の焼野原を見た。日本全土の焦土作戦の功罪が、手に取るように分かった。戦前に訪れ学んだ美しい日本・自分たちのしたことが多くの民を地獄に突き落とした。罪の意識で、胸は痛み、ほとんど眠れないほど、毎晩強くうなされた。

≡オータニとクラークが会ってから2、3年が過ぎた秋の日。。
GHQ本部の会議室、夕日が差し込んでくる。あの2人がいた。(昭和25年)

クラーク<トレイシーを思い出すな、この夕日は。

オータニ>まさにそうですね、大佐。

クラーク>大佐はやめてくれ、クラークさんでよいよ。

あれからいろいろあった。自分の任務もそろそろ終わりだ。贖罪の旅はまだまだ続く。アメリカに帰って、帰還兵の心のケアに立ち会わなくてはならない。残念だがオータニ君、もう少しでお別れだ。

オータニ>えっ、それは急な話ですね。

クラーク>いや、前から決めていたことだ。憲法も変わり、民主主義教育も形ばかりだが、軌道に乗り出した。あとは、君たち日本人が、しっかりがんばるんだ！！

オータニ>ありがとうございます！！しかし、極東国際軍事裁判は・・・戦勝国による敗戦国の処罰。『デス・バイ・ハンギング！！』と告げられた時の東條英機首相の顔、忘れられません。誰が悪かったのか？処刑されずに生き延びた人もいるし、南方など、現地裁判で処刑された人もいます。

クラーク>戦争は悲惨だ。人間を狂わせる。国家を狂わせる。民衆を地獄に突き落とす。二度と民の心に、戦争容認の（心の）芽を生やさせてはならない。

オータニ>お言葉ですが、今年今、半島では北からの脅威、38度線を越えようと、兵力が押し寄せてきています。アメリカは、また日本空襲よりも激しく、半島に武力を展開するでしょう。

こういう時に、あなたのお力を借りられなくなるのは、きわめて残念です。

クラーク>・・・申し訳ない。母国の事情もあるのだ・・・

オータニ>・・・（左遷ですか??戦争に突っ込むときに、平和主義者はいらな
いと・・・）

クラーク>今日は合わせたい人が来ている。びっくりすると思うよ。

静かにドアが開いた。直立不動で、少しわびたような、老人にも見える紳士が立っていた。
神の宮であった。

オータニ>大使!!!??・・・まさか、神の宮大使では??

生きておられたのですか!?

神の宮>・・・

クラーク>中へお入りください。

3人、立っている。

神の宮>すまなかった。あの時は傲慢だった。

私のうちは男爵の出で、資源の乏しい日本がアメリカ・イギリス・オランダなど
からはさまれて、大陸進出も批判され、アジアの独立もかなわず、どうしようも
ないところにいた。国際連盟も脱退し、どん詰まりだった。

そこに、救世主のように現れたのが、ナチス・ドイツだった。民族の純潔と純化。
優秀な民族が、この無秩序の世界をコントロールするべく、連帯するゝ

ドイツ民族・イタリア・日本民族、この3国が連携すれば、蒸気機関から始まっ
た植民地主義のイギリスやアメリカ・オランダなどに勝てるはずだ。そう信じた。

この道しかないと思った。日中戦争は、泥沼だった。私の親族もそこにいた。

・・・

どうかゆるしてくれ。

クラーク>あなたは、極東国際軍事裁判でも死刑を免れました。あの、トレイシ
ーで自殺を図った時も、急所を外れ、懸命の処置で生き延びました。

このことを、どう考えておられますか？

神の宮>恥ずかしかった。時の寵児として、ドイツに渡り、かのヒトラーとも渡
り合った男が、マネーベルトに金を隠していたなどと・・・

オータニ>いや、それは・・・

神の宮>あそこには大事な、ドイツで死んだ娘の形見が入っていた・・・そして、
日本に帰る工作資金が入っていたのだ。決して我が身一身のためではない・・・信
じてくれ！！

オータニ>今となっては、、、、

クラーク>それで、、大使にも私と同じく、家族同胞があります。私のトレイシ
ー任務も、大使の秘密も、死ぬまで誰にも言わず、墓場に持って行くものです。

大使も今は、贖罪に努め、日本の復興を陰から応援してくれています。資金援助
や、良い人を育ててくれています。

神の宮>本当にバカだった。神奈川に戦災孤児のためのホームを立てた。障害児もいる。音楽やアートも学ばせている。彼ら・彼女らの作品を見ると、心の底から涙が出る。人間は、いくつになってもやり直せる。

ゆるしてくれ・・・（深く手を地面について、土下座をした・・・）

ゆっくり寄っていくオータニ。その二人の両肩を包むように、クラークが大きな手をかける。

夕日が、さらに強い光を差し込ませる。

静かにBGM「ガード下の靴磨き」インスタ演奏で・・・クラークの言葉とともに盛り上がる。

クラーク>また戦争が近づいている。大事なことは、祈ることです。心からの改心と贖罪の行動です。人間は馬鹿じゃない。最悪の事態を回避する、少なくとも核兵器を使わない知恵が働くはずです!!顔を上げてください。日本もアジアも、これからです。まだまだ、たくさんの困難を越えなくてはなりません。最悪の時を一緒に過ごしてきた我々だからこそ、できることがあるはずですよ。

声を上げ、物を書き、人に渡し、心を強くするのです。まだまだ死んではいけません!!

21世紀を、「平和の世紀」にするのです。我々は“捨て石”ではありません。

「踏み台（石）」にならなくてはなりません。最後までしつかり、立派に生き切らなければ、亡くなった何十何百万の人たちに申し訳ないと思うのです。どうか、心を強く、お体を大切に。そして、この不思議な三人の「秘密同盟」をヨロシク!!・・・どうか、どうか、おねがい・・・いたします!!

どこからか、歌が聞こえる・・・

♪いまじん、ひととひとの、いまじんこころをかえる、いまじん、ふれあうじゆう、
いまじん、ゆうきのちから、いまじんすべてのひとに・・・ゆっくりと、ときはかな
らずかわってゆく、どんなにやみがふかくても、めのまえのひかりを、しんじよう、
てとてをつなぐ、いまじん♪

End「To」に、♪「茶色の小瓶」が流れる。